

障害者政策委員会

ニュースレター(No. 9) 2012.11.16

障害者政策委員会委員 全難聴副理事長 新谷友良

【障害者政策委員会第5小委員会開催】

11月12日、障害者政策委員会第5小委員会の2回目の会議が開かれました。今回のテーマは、「公共施設及び交通機関等のバリアフリー化の推進」です。また、「国立国会図書館における視覚障害者等へのサービス」のプレゼンテーションがありました。

情報保障関係で、以前から準備されている

ものですが、イエローカードのスタンド版が今回の会議から使用されました。(写真)会議では、発言が速くなったり、専門用語・英語などが使用されることが多くありますが、内容の理解が困難であった



り理解が追いつかないときに参加者がイエローカードを上げます。今回、新谷も発言者の声が小さく、要約筆記者の入力が困難になる場面でイエローカードを上げました。

【会議の様子】

最初「公共施設及び交通機関等のバリアフリー化の推進」について国土交通省より施策の現状について説明がありました。これに対して委員から多くの質問が出ました。

質問の多くはバリアフリー基本計画に関するもので、「●バリアフリー計画が進展していない。予算が少なく民間を巻き込んでいない。●ホームドアの設置が遅れている。●公共施設には、学校も含めて考えるべき。●公共施設を点でしか考えていない。目的物に行きつくサインプランニングも

ガイドラインに盛り込むべき。●特定経路の建物の強化、商業地域の面積基準など、防災の観点から検討しバリアフリー法の負担を軽くすべき。」などが指摘されました。なお、新谷よりは、「国交省の施策報告で、聴覚障害または文字表示に言及しているのが2か所しかない。建物・交通バリアフリー施策の中で聴覚障害または文字表示をどのように認識しているのか」と聞きましたら、ガイドラインでは少しは言及しているとの回答でした。また、公共建物・交通機関での文字表示・補聴援助システム設置に触れて、「音声認識ソフト開発に予算を投入すべき」と意見を出しました。

次に、「国立国会図書館における視覚障害者等へのサービス」の説明がありました。メインの議論は図書の電子化の問題で、国会図書館は図書をOCRで読みとって電子化を進めていますが、電子化データはPDFなので視覚障害者はそのままでは音声化して聞き取れず、音声読み上げが可能なテキスト化が求められます。そのためのOCR技術の開発がポイントとの説明でした。部分的にはテキストデータ化も進んでいるようで、公共図書館、大学などにはインターネット配信が計画されています。

新谷よりは「オーディオテープも保存しているのか？その場合の文字起こしは？」と質問したら「テープ保存は行っているが、文字起こしはしていない」との返事でした。

次回の小委員会は11月26日です。